

篠原湘南クリニックの軌跡1-2 篠原裕希理事長インタビュー

診療所開業から35年、来年はクローバーホスピタル開設20周年を迎えます。そして今、さらなる進化へ向かう中、これまでの道のりとこれからについてインタビューを行いました。（全3回）

診療所時代の外科の救急当番の思い出

救急当番の時、サーファーが肩関節を脱臼して搬送されてきたことがありました。厚手のウェットスーツを脱がすことができず、看護師が「これ切りますよ」とハサミを出したら、サーファーは「これ買ったばかりで、高かったんです。切らないでください」と泣きながら懇願しましたが、救急隊員に説得され、かわいそうでしたが切らせてもらい無事に整復できました（笑）。昔の外科は整形も診察したんですよ。本当に何でもまずは診る、まさに総合診療でした。



デイケアや訪問診療を展開した理由

転機は1996年の付き添い婦制度廃止でした。それ以前は入院患者さんの療養中の世話を看護師ではなく「付き添い婦」にしてもらっていたのです。廃止により看護師を増員せねばならず、19床の診療所では経営的に難しいと判断し、2階の病床をやめてデイケア（通所リハ）を始めました。2000年介護保険制度が始まり、医師会では介護保険制度の担当になりケアマネ第1期生で合格。介護保険に強くなり、患者さんが相談に訪れ、クリニックは多い時で1日200人受診する絶頂期でした。今も整形外科外来を担当してくれている稲垣克記先生がアルバイトにきてくれていましたね。

この頃に昼休みの時間に訪問診療も開始。門倉充代先生との出会いがあり、在宅の患者さんは200人と当時としては大きな訪問診療でした。その礎のもと、多くの先生やスタッフの尽力により訪問を続けてきて、現在地域の1,000人近い患者さんの在宅医療を担うようになりました。



クローバーホスピタル開設への転機

そうして診療所が絶頂期を迎え、次は病院を開設しようという2003年に鈴木勇三先生（病院長）との出会いがありました。先生は30代で藤沢市民病院の呼吸器内科で活躍されていた。私は「若いけどこいつなかなか良いな！」と感心し、「病院をやるから、院長としてやらないか？」と声を掛けました。1週間後に「やりましょう」と返事をしてくれました。次に看護部長も無事に決まり、こうしてクローバーホスピタルは2004年に開院することができました。（次号で第Iシリーズは終了します）



いろいろ突っ込みたくなるが
リーゼントが素敵なショット



医療法人篠原湘南クリニック クローバーホスピタル

基本理念

病院憲章

Follow

us!

instagram

地域に密着した
“入院のできる在宅医療”
“医療のある介護の実践”

1. 伝統と歴史を認識し、患者様・地域・職員から選ばれる病院をめざします
2. 一人ひとりが親身になって、すべての患者様を支援します
3. 常に在宅復帰の可能性を追求し、最新・良質なチーム医療・介護を提供します

ホームページ

